



Gensei Girls
JISSEN WOMEN'S UNIVERSITY

現代の暮らしと社会の諸課題と
その解決法を、社会的需要の高い
「環境」「メディア」「自立」の
3つの領域から横断的に学修します。

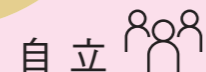
学びの領域



環境
地球環境やエネルギー問題についての基礎知識を学び、問題解決や改善に結びつく手法を考えます。持続可能な社会の担い手となる専門知識と技能を身につける領域です。



メディア
現代のコミュニケーションに必須のメディア技術を習得すると同時に、メディア的思考に基づいた経営、新たなサービスの創出、メディア社会の課題を学びます。



自立
エネルギー、食料、安全、生きがい、コミュニティなど、さまざまな切り口から、環境への配慮や少子高齢化、情報化社会に対応する地域づくりを考えます。

学びのポイント

Point 1

プロジェクト型
演習を通して
課題解決の力を養う。

Point 2

主体的に活用する
ためのメディア制作の
技術を磨く。

Point 3

1年次から
キャリア形成を意識し
自立できる女性をめざす。

高校生への Message



川又 理乃

私にとって実践女子大学は、行動範囲と将来の可能性を広げてくれた場所です。やりたいことが不明確だった私も、進みたい道が見つかることができました。将来の道が決まっている人もそうでない人も、自分の“道”が実践女子大学で見つかるはずですよ。ぜひ、大学を最大限に利用してください。



鶴見 香奈

私は憧れていたテレビの世界に入りました。そんな世界もあると知ったのは、現代生活学科の授業でした。ここでは、高校時代では出来なかったことが沢山経験できます。楽しい学生生活を送れることを祈っています！



星野 有香

現代生活学科は社会人の方と関わる機会や実践して活動できる機会がたくさんある学科です。初めは不安になりますが、一歩踏み出した先には、楽しさや嬉しさがあり、充実した大学生活を送れると思います。ぜひたくさん挑戦して楽しみながら頑張ってください！

大学生だからこそ失敗を恐れずに挑戦出来るのが沢山ありますので、チャンスがあれば自分から掴みにいってください！そこで得る経験や仲間は必ずこれからの自分を支えてくれます。



板垣 実那

入学時は、環境分野に漠然とした興味を抱いていただけでしたが、授業で学び、企業と連携・環境報告書の作成など実践的な学びを経て、最終的には学外イベントで発表することができました。大切なのは口に出すことです。発信することで仲間と高めあい、教授や助手が支援をしてくれますので、ぜひ実践女子大学でチャレンジしてみてください。

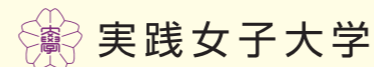


打橋 実里

様々な分野を同時に学ぶことで視野が広がります。将来やりたいことがある人も、まだわからない人も、幅広く学ぶことで新たな発見があると思います。焦らず学べることを学んで、たくさんの友達と思い出を作ってください！



渡辺 あさひ



実践女子大学

[日野キャンパス] 〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1 TEL.042-585-8820(入学サポート部) <http://www.jissen.ac.jp>



卒業生から見る現代生活学科の魅力



Gensei Girls
JISSEN WOMEN'S UNIVERSITY

実践女子大学
生活科学部 現代生活学科



Message



卒論はゼロ・ウェイスト
環境問題に積極的な会社で
将来は環境分野での
活躍が目標

大成建設株式会社
川又 理乃

生活科学部 現代生活学科 2021年度卒業
三重県立神戸高等学校 出身

大学では環境・エネルギーゼミに所属していました。ゼミ活動で廃棄物処理業者を見学した際、ごみが分別できていない現状を目の当たりにして驚き、卒業論文ではごみをゼロに近づける「ゼロ・ウェイスト」について書きました。就職に際しても環境問題への取り組みを重視しました。入社した大成建設は木造・木質建築や内部にCO₂を固定するカーボンサイクル・コンクリートの開発など、環境に配慮した取り組みにとても積極的です。今の業務は社内で使用する情報機器を発注する調達業務です。環境とは少し離れた部署ですが楽しく仕事に励んでいます。まずは現在の部署で一人前になって、ゆくゆくは環境分野に携わりたいなと思っています。また現代生活学科は3つの分野を広く学べる学科なので多様な考えの人と関わることができました。この経験は社会に出て様々な人とコミュニケーションを取りながら仕事をすすめるうえで大変に役立っています。



Message



大学初の環境報告書作りで
JR東日本の環境への
取り組みを知り
今は駅の改札に立つ

東日本旅客鉄道株式会社
板垣 菜耶

生活科学部 現代生活学科 2020年度卒業
東京家政大学附属女子高等学校 出身

高校生の時にオープンキャンパスでカフェから出る生ごみをバイオマス発電の燃料にするという現代生活学科の模擬授業を受けました。身近な話題だったので環境に強く興味を持ち、ここで環境問題を学びたいと思ったのが入学のきっかけです。大学では環境を中心に発電のことや法律、企業が実際に行なっている対策などを幅広く学びました。またゼミでは大学初の環境報告書の作成をしました。作成にあたっては様々な企業の環境報告書を読み、その中の一つにJR東日本がありました。発電はもちろん水素エネルギーやエコステーションなど、多くの取り組みを行っていて、調べて行くうちに鉄道の仕事に興味を抱きました。今はそのJR東日本で駅の改札を担当しています。お客さまに切符や道などを説明する場面も多く、大学で学んだプレゼンテーションの技術がとても活きていると思います。将来は環境活動につながるようなお客様向けの企画を作りたいと考えています。



Message



幅広く学びながら
メディアに興味湧き
テレビ制作の仕事に従事

株式会社クリーク・アンド・リバー社
鶴見 香奈

生活科学部 現代生活学科 2017年度卒業
埼玉県立川口高等学校 出身

高校生の頃は将来の進路が明確には定まっていませんでした。そこで大学進学にあたっては幅広く学べる学校に進みたいと思い、実践女子大学の現代生活学科は環境、メディア、自立といった多様な分野を学べることを知り、自分に向いていると考えて入学を決めました。大学では幅広く学びながら、映像コンテンツやマスコミの授業に徐々に興味を引かれるようになりました。メディアを学ぶことで映像の表現や制作方法を知り、テレビ制作に携わりたいたいと考えきっかけにもなりました。入社後4年間は地上波の報道番組のディレクターをしていました。仕事内容は、ニュースの現場に行き、取材・撮影をして編集をすることです。政治から芸能まで多岐にわたるニュースを扱います。時間は不規則で忙しいのですが、毎回新鮮で面白い経験でした。今はテレビ制作部門の新卒採用をする部署で採用担当をしています。多くの学生の方にテレビで働く魅力を伝えたいと思っています。



メディア



Message



幅広く学ぶことで
やりたいことが見えてくる
それが現代生活学科の魅力

株式会社みずほ銀行
打橋 実里

生活科学部 現代生活学科 2019年度卒業
カリタス女子高等学校 出身

高校生の頃は明確な目標が無かったので、環境・メディア・自立を幅広く実践的に学ぶことに魅力を感じて現代生活学科を選びました。テレビを観たり雑誌を読むのが好きだったので、やりたいことが無いなら好きなことを学ぼうと思いメディア領域を中心に学ぶようになりました。ゼミではcaféの特集記事を作りました。お店にアポイントを取り、取材・撮影・編集をして冊子に仕上げました。大学でメディアを学ぶ間に、社会の進歩と豊かさを実感し、長生きしてこれからの社会を見ていたいと思いました。豊かさを支えているのはお金です。それが銀行に就職した大きな理由です。今は、みずほ銀行で店内営業をしています。来店されたお客さまに資産運用・資産形成のご提案をするのが主な仕事です。将来的な資産の不安を無くすなど、目の前のお客さまの役に立てるように心がけています。実感として、いろいろ学ぶことで目標が見えてきます。それも現代生活学科の特色です。



自立



Message



在学時から地域活動に携わり
今は市役所の希望の部署で
国際・国内交流などを担当

吉川市役所
星野 有香

生活科学部 現代生活学科 2017年度卒業
群馬県立沼田女子高等学校 出身

中学生の頃からまちづくりに興味があったので、3つの領域の中では「自立」を中心に学びました。3年次からは地域の方や市役所職員の方と一緒に各種のプロジェクトを実践的に行いました。幅広い方々と関わることで様々な意見が聞け、新しい視点を獲得することができました。これは仕事にもとても役立っています。卒業後は1年間留学をして、前職ではその経験を活かして国際物流の企業で日本から海外へ輸出する手続きのサポートをしていました。今は吉川市役所で男女共同参画・文化交流担当として、主に多文化共生や国際・国内交流などに従事しています。国際交流団体と協力しながら日本語教室や講座・イベントの開催、アメリカの姉妹都市や岩手県の友好連携都市との交流活動などを実施しています。現代生活学科の特色である、一つの分野でなく、自分の軸を持ち繋げていくことが、今の仕事や市民との関わりで活かされています。市職員として多様な視点を持ち、寄り添えるように心掛けています。



Message



夢だった家庭科教員になり
中学・高校生を育成
学科の幅広い学びが役立つ

私立中学・高等学校 家庭科教員
渡辺 あさひ

生活科学部 現代生活学科 2018年度卒業
山梨県立身延高等学校 出身

高校時代から家庭科の教員になりたいという夢がありました。興味がある少子高齢化、地域活性化などを学びながら家庭科の免許が取れることに惹かれて現代生活学科への入学を決めました。現代生活学科の学びには、環境・メディア・自立の3領域があります。私は地域コミュニティの重要性や地域住民主体のまちづくりなど「自立」分野を中心に学びました。ゼミでは自主的にイベントを開催するなど、様々な地域活動に参加しました。子どもからお年寄りまで幅広い人々と関わることでコミュニケーション能力が高まったと実感しています。また多くの人と関わってきた中で、信頼関係を作ることの重要性も学びました。今、教員として中学生と高校生に家庭科を教えます。家庭科の授業では被服や食以外に環境や経済など、幅広い範囲を教えます。大学時代に学んだ環境やメディアの講義がとても役立っています。幅広く学べることは、現代生活学科の大きな魅力です。